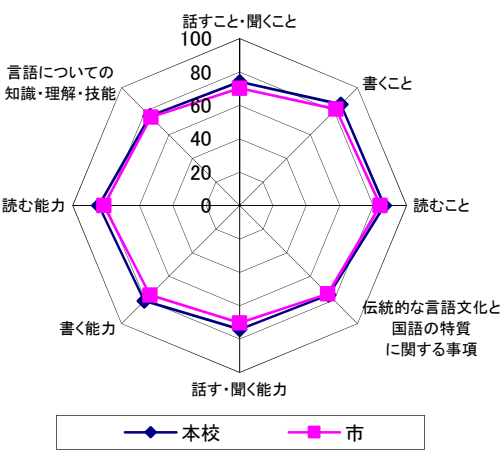


宇都宮市立横川東小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	74.2	70.3	68.2
	書くこと	85.7	81.7	80.6
	読むこと	86.7	84.3	84.3
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	75.5	74.7	72.7
観点別	話す・聞く能力	74.2	70.3	68.2
	書く能力	80.7	76.0	74.1
	読む能力	84.3	81.3	81.1
	言語についての知識・理解・技能	75.9	74.9	73.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

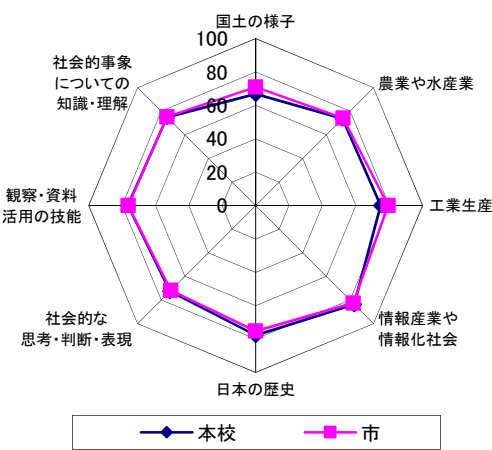
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○領域別、観点別共に市の平均を上回っている。司会者の役割を理解して計画的に話し合うことに対する問いは、4ポイント上回った。 ●記述形式の問題になると、市や全国平均は上回っているものの選択形式の問題より正答率がかなり低くなるという傾向が見られた。	・話し合いの活動では、司会者の役割や話し合いの仕方のポイントを正しく理解できるように指導し、国語だけでなく各教科や学級活動などでも話し合いの機会を多く取り入れ、適切に話し合いが進められるようにする。 ・司会者を交代制にして、誰もが体験を通して学ぶことができるようにする。 ・友達の話を聞いて要点をメモをしたり感想を手短に書いたりなど、話す聞くの活動にも書く活動を適宜取り入れる。
書くこと	○領域別では4ポイント、観点別では3.7ポイント市の平均を上回った。作文を書く問題では、「指定された長さで文章を書く」「グラフから読み取った事実をもとに、自分の意見を書く」といった項目で、90%前後の正答率が得られた。 ●与えられた情報を読み取り、さらに話し合いの内容を踏まえて必要な情報を書き足す問題では、正答率は50%程度という結果であった。	・日頃から日記やスピーチメモ、短い作文などを書く機会を設け、目的に応じた適切な文章を書くことができるように指導する。 ・意見文を書くときは、賛成か反対か自分の立場が明確になるように記述したり、根拠が明らかになるように記述したりすることができるようにする。 ・題意がやや複雑な問題にも慣れるように学習する機会を設ける。
読むこと	○領域別では2.4ポイント、観点別では3ポイント市の平均を上回った。説明文の内容を読み取る問題は、すべて80%以上の正答率が得られた。 ●説明文の内容を読み取る問題では、1.1ポイントとわずかではあるが市の正答率を下回った。	・物語文では、登場人物の人物像や相互の関係、状況の描写をよく捉え、心情や展開を正しく読み取ることができるようにする。 ・説明文では、文と文や段落と段落などの相互の関係を正しく読み取り、筆者の考えを適切にまとめることができるようにする。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○領域別では1ポイント、観点別では1.3ポイント市の平均を上回った。 ●漢字の読みに関しては、「第5学年配当漢字を書く」問題で市の正答率下回る問題もあった。 ●文の構成(連体修飾語)についての問題は正答率が低く、市の平均よりも9ポイント下回った。	・漢字の習熟を図り、さらに力を伸ばしていくとともに、主語述語、敬語(尊敬語、謙譲語、丁寧語)など、言葉の学習に力を入れ習熟を図っていく。 ・百人一首や古典作品、漢文などを声に出して読んだり暗唱したりして、伝統的な言語文化に親しむようにする。

宇都宮市立横川東小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の様子	66.8	71.0	69.4
	農業や水産業	73.6	74.0	69.0
	工業生産	75.0	79.4	75.4
	情報産業や情報化社会	83.7	82.8	88.7
	日本の歴史	77.7	75.2	72.7
観点別	社会的な思考・判断・表現	72.6	71.9	67.2
	観察・資料活用・技能	76.5	76.3	70.7
	社会的事象についての知識・理解	75.0	75.1	73.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

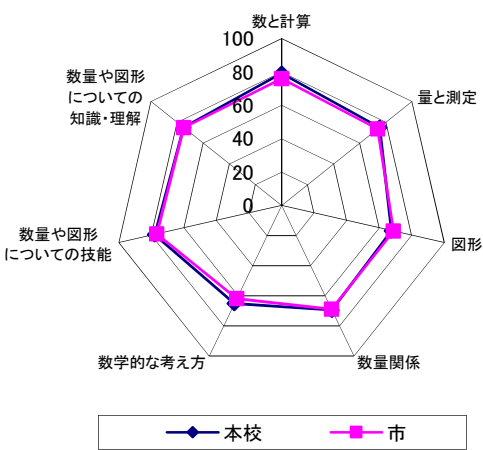
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の様子	●領域別では、市の平均を4.2ポイント下回った。 ●日本の周辺の海洋名では市の平均より11ポイント下回り、大きな課題が見られた。 ●日本の周囲の国の国旗に対する理解も3ポイント下回った。 ○国土の主な山脈、川、平野の名称については1.6ポイント上回った。	・地名の理解や国の名称、位置について選択するような問題では、単なる暗記にとどまるのではなく、地域の特色や国の特徴などにも触れ、より発展的な問題にも応用できる力をつけさせたい。 ・国土の理解を深めるとともに周辺の国や海洋にもしっかりと目を向けさせ、地図等を活用して位置関係を把握させたい。
農業や水産業	●領域別では、市の平均を0.4ポイント下回った。 ●稲作の工夫や努力についての資料の読み取りが2.8ポイント下回った。 ○稲作に関する人々の食の安全確保のための工夫について考える内容では1.2ポイント上回った。	・引き続き、グラフや表から、それらが何を意味しているのか、どのような特徴があるのかを意識的に考えさせる場を多くし、資料を正しく読み取り、活用する技能を高めていきたい。
工業生産	●領域別では、市の平均を4.4ポイント下回った。 ●工業製品を工業の種類別に分類整理する内容では、6.7ポイント下回った。 ●工業生産に従事している人々による環境保全のための工夫や努力については2.2ポイント下回った。	・工業製品についての理解を深めるとともに、表やグラフでの表し方、読み取り表現する力を養わせていきたい。 ・環境保全や公害と関連付け、映像資料等を活用しながら現状と人々の工夫を必要性に迫りながら把握させていきたい。
情報産業や情報化社会	○領域別では、市の平均を0.9ポイント上回った。 ○テレビやラジオ、新聞などの情報手段に対する理解については、0.6ポイント上回り、95パーセントを超える正答率であった。	・身近な暮らしの中にある情報利用やネットワークに関する内容は概ね理解していると考えられる。今後もこの分野の理解向上のために、デジタル教科書の効果的活用や、動画・写真資料を計画的に活用し、児童自身の身近な生活と関連付けながら視覚的に理解を深めることができるようにする。
日本の歴史	○領域別では、市の平均を2.5ポイント上回った。 ○どの時代においても市の平均を上回っている項目が多い。 ○特に鎌倉、室町時代の理解が高く、市の平均を約8ポイント上回った。	・一つ一つの出来事に関して基本的な知識は理解しているように思われる。今後は出来事の背景にある部分を考えさせたり、時代のつながりを意識させたりしながらさらに理解を深めさせていきたい。 ・私事として歴史が考えられるように地域に関する資料を活用したり、現代社会と比較させたりして話し合う場面を取り入れて理解させていきたい。

宇都宮市立横川東小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	79.2	76.1	73.5
	量と測定	75.1	73.6	70.1
	図形	67.5	68.8	66.6
	数量関係	69.4	68.9	64.5
観点別	数学的な考え方	65.1	61.8	54.9
	数量や図形についての技能	78.0	76.7	73.2
	数量や図形についての知識・理解	75.0	75.0	73.8

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

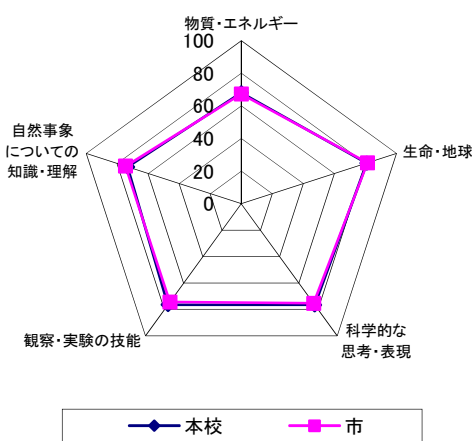
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○平均正答率は、市の平均を3.1ポイント上回っている。 ○小数第一位×小数第一位の計算は5.8ポイント、小数の除法に合った式を選ぶ問題は8.7ポイント、もとにする量×倍の式が求めるものを選ぶ問題は6.5ポイント、市の平均を上回っている。	・計算力の向上を目指して、計算オリンピックとして年2回行事予定に位置付けて実施してきた。また、習熟度別編成で、個別指導により丁寧につまづきを解消することに取り組んできた。引き続き、計算力の向上を目指した取組を継続して行っていく。
量と測定	○平均正答率は、市の平均を1.5ポイント上回っている。特に、シートの面積と人数の割合を求めどのグループが最も混んでいるかを考察する問題は6.1ポイント、平行四辺形の外にある高さを選ぶ問題は4.8ポイント、市の平均を上回っている。 ●道のりと時間から時速を求める式を選ぶ問題は、市の平均を5.3ポイント下回っている。	・速さの学習での公式の定着が不十分であるため、公式を確実に身につけさせ、活用できるようにする必要がある。速さ・道のり・時間の三者の関係を再確認させながら問題に応じて活用できるようにする。
図形	○合同な三角形の作図は、全国正答率(参考値)を13.1ポイント、市の平均を1.4ポイント上回っている。 ●点対称な図形を選ぶ問題は、市の平均を5.1ポイント下回っている。	・点対称の問題の誤答を分析すると、ほとんどが「線」対称な図形を選択していた。問題を読み取る際には、大切な箇所にアンダーラインを引くなど丁寧に取り組むことを習慣づけたい。
数量関係	○平均正答率は、市の平均を0.5ポイント上回っている。中では、円グラフから割合を読み取り比較量を求める問題は8.9ポイント上回っている。 ●xとyを使って2つの数量の関係を式に表す問題は、全国正答率(参考値)は上回ったものの、市の平均は3.1ポイント下回っている。	・文字を使った式の正答率が、クラスによりかなりの差が見られたので、定着度が低い状況がみられた場合は、特別に復習の時間を設けるなどの細やかな対応をしていく。

宇都宮市立横川東小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	68.1	67.3	64.4
	生命・地球	80.8	81.3	80.3
観点別	科学的な思考・表現	76.5	75.3	72.6
	観察・実験の技能	76.5	74.4	73.5
	自然事象についての知識・理解	73.3	74.7	73.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	○すべての観点において、市平均正答率を上回っている。 ○「電流のはたらき」「物の燃え方」に関する問題では正答率が高かった。 ●「物の溶け方」「水溶液の性質」に関する問題では、他と比べて正答率が60%前後と低かった。 ●知識を問う問題の正答率は高く、根拠を説明する問題では正答率が低いという傾向が見られた。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・実験の内容と結果を知識として理解している一方で、それらを総合的に考察して関連性を理解する点において改善の余地が見られる。そのために、実験の目的、その実験結果から導き出される事実までの思考のプロセスを、児童の言葉を用いながら丁寧にまとめられるよう指導法を改善する。段階に応じて、実験方法を自ら考えさせたり、根拠をもって予想を立てさせたりして、見通しをもって取り組めるようにする。
生命・地球	○すべての観点において、市平均正答率を上回っている。 ○「植物のつくりとはたらき」「動物のつくりとはたらき」に関する問題では正答率が高かった。 ●「生物と環境」「月と太陽」に関する問題では、他と比べて正答率がやや低かった。 ●知識を問う問題の正答率は高く、根拠を説明する問題では正答率が低いという傾向が見られた。	・それぞれの単元を理解している一方で、複数の知識を関連させて考察する力には改善する余地が見られる。学習のまとめとして図や絵を使ってレポートをまとめさせるなどして、学習内容を整理したり関連付けたりする機会を設ける。また、映像資料を今まで以上に活用し、視覚的に理解する環境も整える。

宇都宮市立横川東小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎基本の定着と主体的な学習態度の育成	「朝一学習」(月・水・金:読書, 火:国語, 木:算数)を日課表に位置付け, 基礎基本の定着・進んで学習に取り組む習慣付けを図る。	・学習と生活のアンケートから, 学習に対して「自分から進んで取り組んでいる。」児童は, 平均86%である。学年間の差はあるが, 良好な結果であった。また, 「勉強をしていて, おもしろい, 楽しいと思うことがある。」児童は, 平均92%と高く, 学習に対して良好な意識が育まれていることが分かる。
目標の明確化と学習を振り返る活動の充実	学習のめあてを明確にし, 授業を構造化することによって, 児童自身が学習を振り返りやすくし, 次の学習への意欲づけを行う。	児童生徒質問紙調査結果から, 「授業の最後に学習したことを振り返る活動をよく行っている」と回答した児童の割合が, 5年生では91.8%になり, 昨年度よりも飛躍的に向上した。
思考力・判断力・表現力育成につながる「自分の考えを書く活動」の習慣化やそれを基に人に伝える「説明」「話し合い活動」の充実	記述式の問題に慣れることやいろいろな分野の情報や活字に触れさせることにより語彙を広げたり, 身に付けたりさせる。算数では, 文章を読んで図式化するなど, 思考を助ける活動にも取り組むようにする。	・学習内容定着度調査では, すべての教科で「活用」の平均正答率は市を0.8～4.4ポイント上回っている。思考力・表現力が向上していることがうかがえる。 ・学習と生活のアンケートの「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」児童の割合は, 平均85%を超えた。継続して取り組んでいきたい。
家庭学習の充実	「家庭学習の手引き」を活用して, 計画的な家庭学習を行うことができるような働きかけや児童の取り組みや努力への称賛等, 個々の児童に応じた支援への理解と協力を得るよう努力する。	・「宿題」についての肯定的回答割合は, 平均91%を超え良好であるが, 否定的な回答も約10%ある。個人差があることが分かる。 ・「自主学習」については3年生以上は市の平均を上回っている。学年が上がるほど肯定的回答の割合は上昇し, 6年生では78.8%の児童が自主学習に取り組むことができているが, 個人差が大きいことが分かる。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方針

・学習内容定着度調査の結果より, 朝一学習や漢字・計算オリンピックなどで力を入れている成果が表れ, 国語・算数の基礎学力は向上していることが分かる。それに反して, 社会や理科の基礎的事項の定着に不十分な点が見られた。教職員の共通理解を図り, 社会や理科の繰り返し学習にも力を入れていきたい。 ・「朝一学習」の時間を位置付け, 全校体制で取り組むことによって習慣化が図れたが, 各学級での取組や内容にばらつきが見られた。各学年の実態や学習内容に応じて, 児童が進んで取り組むことができる課題設定をするとともに, 学年会などで取り組みの様子について検証しながら取り組むようにする。 ・学習内容定着度調査では, すべての教科で「活用」の平均正答率は市を0.8～4.4ポイント上回っている。思考力・表現力が向上していることがうかがえる。学校課題でもある「主体的・対話的で深い学び」に発展していけるよう, 各教科での学習過程の明確化や学年間のつながりの明確化を課題として指導に取り組んでいきたい。 ・学校課題研究を通して, 「主体的な学び」「対話的な学び」を意識した発問や指示に努めることができたがまだ十分とは言えない。さらに研究を進める必要がある。 ・「宿題」についての肯定的回答割合は, 平均91%を超え良好であるが, 否定的な回答も約10%ある。個人差があることが分かる。 「自主学習」については3年生以上は市の平均を上回っている。学年が上がるほど肯定的回答の割合は上昇し, 6年生では78.8%の児童が自主学習に取り組むことができているが, 個人差が大きいことが分かる。今後も家庭との連携に力を入れて取り組んでいきたい。
